

第1回（仮称）くろべ市民交流センター管理運営計画策定委員会会議録

日 時 平成30年3月6日（火）午後3時00分～
場 所 黒部市民会館101会議室

会議次第

- 1 開 会
- 2 委嘱書の交付
- 3 市長挨拶
- 4 委員の紹介
- 5 管理運営計画策定委員会に関する要領
- 6 協議事項
 - (1) 委員長及び副委員長の選出、座長の指名
 - (2) 管理運営計画の諮問（管理運営計画の策定に係る基本方針等）
 - ① 管理運営計画（メインコンセプト・検討項目）
 - ② 今後の協議方法及びスケジュール
- 7 閉 会

本日の出席委員 14名

藤 田 公仁子（富山大学地域連携推進機構）
堀 内 國 春（富山県図書館協会）
上 田 洋 一（黒部市図書館を愛する会）
橋 爪 みち子（黒部市合同読書会）
石 川 幹 夫（黒部市公民館連絡協議会）
長谷川 悦 子（子育て支援活動実践者）
河 田 稔（黒部市自治振興会連絡協議会）
牧 野 和 子（くろべ女性団体連絡協議会）
中 野 高 嗣（黒部商工会議所）
菅 野 智 美（黒部ワンコインプロジェクト実行委員会）
中 尾 晃 司（公募委員）
新 酒 さおり（公募委員）
能 澤 雄 二（黒部市副市長）
国 香 正 稔（黒部市教育長）

本日の欠席委員（0名）

.....

事務局

【教育委員会事務局】

長 田 行 正（黒部市教育委員会事務局教育部長）
西 中 雅 博（黒部市教育委員会事務局生涯学習課長 黒部市歴史民俗資料館長）
中 谷 松 憲（黒部市立図書館長）
島 崎 豊（黒部市教育委員会事務局生涯学習課 生涯学習施設建設推進班長）
川 端 左起子（黒部市図書館構想推進班長図書館長補佐・奉仕係長）
興 水 一 紀（黒部市教育委員会事務局生涯学習課 生涯学習施設建設推進班 課長補佐）
内 山 香 織（黒部市立図書館主査）

【関係部局】

御 囲 泰 晃（黒部市総務企画部長）
山 本 浩 司（黒部市都市建設部次長 都市計画課長）
島 田 恭 宏（黒部市産業経済部 商工観光課長）
藤 田 信 幸（黒部市市民生活部 こども支援課長）

【管理運営計画策定支援業務委託業者】

岡 本 真（アカデミック・リソース・ガイド株式会社）
鎌 倉 幸 子（アカデミック・リソース・ガイド株式会社）

.....

開 会

○事務局 ご案内の時間となりましたので、ただ今から「第1回（仮称）くろべ市民交流センター管理運営計画策定委員会」を開会させていただきます。本日の司会進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

.....

委嘱書の交付

【出席委員に対し市長から委嘱書を交付】

.....

市長挨拶

○事務局 それでは、ここで堀内康男黒部市長がご挨拶を申し上げます。
○市長

皆様、お疲れさまでございます。今日は大変春日和になりまして、この市民会館の周りの桜も市内で最も早く咲く桜でありまして、間もなく花見ができるのではないかなと感じております。

本日、第1回の（仮称）くろべ市民交流センター管理運営計画策定委員会を開催いたしましたところ、委員の皆様には大変ご多用の中お集まりいただき誠にありがとうございます。また今回は、委員就任をお願いして快くご承諾いただいた方、また自ら公募に応募していただいた方、本当にありがとうございます。各分野で活躍の皆様方が委員に委嘱されました仮称ではありますがくろべ市民交流センターの管理運営計画の議論をしていただけることをありがたく、嬉しく思っているところです。

平成18年3月に旧宇奈月町と旧黒部市が合併しまして、丸12年ほど経過いたしておりますが、第1次の総合振興計画を策定いたしまして、本年度でその計画期間10年間で終了しようとしております。その中でご存知の通り、新幹線の関連事業、あるいは新庁舎の建設、黒部市民病院の増改築等、大きな事業がたくさんあったわけですが、皆様のご理解・ご協力のおかげで、おおむね順調に進めることができたものと考えておりまして、このことに対しましても感謝申し上げたいと思います。またその新庁舎建設の後、旧庁舎の跡地の活用ということで、いま、議論をお願いしております（仮称）くろべ市民交流センターにつきましては、総合振興計画の中でも重点プロジェクトとして位置付けをさせていただいております。図書館を核として、この市民会館、隣の働く婦人の家、三日市公民館、子育て支援機能等を複合化させた施設を建設したいということで議論を進めておりまして、昨年、6月議会で基本構想につきましては議決をいただいたところでありまして、今後、基本設計を策定し、そして、実施設計、工事と進んでいくわけでありまして。

我々の地域にとっていま最も大きな課題は、やはり少子高齢化、人口減少の対応が最も重要な課題だと思っております。黒部市が選ばれるまち、住み続けたいまちとして、この人口減少にどう対応していくかということでありまして、先日の報道でもありましたように、黒部市は昨年、社会増減、転入転出のプラスマイナスでいいますと、116人プラスでありました。転入の方が多かったということで、富山県の中では富山市に次いで多かったのではあります。しかし、自然増減、生まれる赤ちゃんが亡くなる方をプラスマイナスしますと、大体300人程マイナスになります。300人生まれて、600人の方が亡くなるということで、マイナス300。社会増減と差し引きしますと、約200弱程人口が減っていくという状況にありまして、自然増減、赤ちゃんがたくさん生まれればよいのですが、なかなかすぐにはそういう風になりませんので、やはり社会増減をどうやって増やしていくか、あるいは交流人口、関係人口を増やしていくことが大変重要な課題でございます。

その中で、やはりこの中心市街地、この三日市地区を中心として居住誘導をしていくことが大変重要です。そのためには、公共交通などもしっかりと整備し利用して、移動がしやすい、移動が便利なそういう取り組みも大事です。また、居住誘導地域における便利で使いやすい図書館をしっかりと整備していくことも大変重要だと思っております。

そういう意味では、この市民交流センターに対しまして、計画通り進めていくことが大変重要であります。又多くの市民の皆様方の注目もいただいておりますし、関心・期待も高いところがございます。ぜひ、皆様方には闊達なご議論をいただいて、すばらしい管理運営計画の策定をしていただければというふうに思っているところでございます。この議論は、全市的な議論にならなければならないと思っております。ご参加の委員の皆様だけではなくて、ご所属の組織・団体があれば、その方々の意見聴取、議論をしていただき、それを受けてご発言をしていただければ、大変ありがたいというふうに考えております。大変ご苦勞をおかけするわけではありますがありますけれども、しっかりとした議論の中で、すばらし

い管理運営計画と施設整備を進めてまいりたいと考えておりますので、皆様方にはよろしくお願いを申し上げて開会の挨拶に代えたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

.....

委員の紹介

【事務局から出席委員を紹介】

.....

管理運営計画策定委員会に関する要領について

○事務局続きますして、次第5の方に入ります。（仮称）くろべ市民交流センター管理運営計画策定委員会に関する要領としてご説明いたしたいと思ひます。本委員会設置にあたりまして、運営事項を内規として定めておりますので、事務局から説明いたします。

○事務局（仮称）くろべ市民交流センター管理運営計画策定委員会に関する要領を説明いたします。

第1条は、本委員会設置目的と名称

第2条は、所管事項として本営計画の策定に関し、必要な審議を行うことを記載しております。

第3条は、本委員会の組織についての規定でございます。第1項では14名の委員で構成される点、第2項では委員の委嘱の区分。第3項では委員の任期は審議が終了したときまでとする点、第4項では下部組織としてワークショップの設置について規定されております

第4条は、委員長、副委員長についての規定でございます。第1項では、委員の互選により委員長、副委員長を選出する点、第2項では、委員長が委員会を総理、代表する点、第3項では副委員長の職務代理規定について規定されております。また第4項と5項では、下部組織ワークショップの座長の設置、委員からの座長の選出、座長がワークショップを総理する点について規定されております。

第5条は、委員会における会議についての規定でございます。第1項では委員長が委員会を招集し議長となる点、第2項では委員会での関係者の出席規定について規定されております。また第3項と4項ではワークショップに関する規定を定めており、委員会に提案する事項について、意見を集約し調整していく点について規定されております。

第6条は、アドバイザーに関する規定であり、必要に応じて助言を求める点について規定されております。

第7条では、事務局を教育委員会事務局に置くこと。

第8条は、その他の取り扱いについての規定でございます。

附則について、施行日は委員の皆様への推薦依頼をした平成29年11月27日としており、本日の第1回目の委員会についてのみ、市長が行う旨を記載しております。説明は以上でございます。

○事務局ただいまの説明に関しまして、ご質問等ありますでしょうか。

【「質問なし」と呼ぶ者あり】

○事務局ないようでございますので、ご確認いただいたものとさせていただきます。

.....

協議事項（１）委員長及び副委員長の選出、座長の指名

○事務局 それでは、次第の6の協議事項に入らせていただきます。

本委員会に関する要領では、委員長が議長となって会議を進行するとなっておりますが、委員長が決定するまでの間、事務局の方で会議を進行させていただいてよろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

○事務局 ありがとうございます。ご異議がないようですので、事務局で会議の司会、進行をさせていただきます。それでは早速、協議事項の6にあります委員長の選出を行いたいと思います。要領の第4条第1項の点におきまして、委員長は委員の互選によるものとなっています。どなたからでも委員長にふさわしいと思われる方をご推薦いただければと思いますが、いかがでしょうか。

○A委員 学識経験者として参加しておられます藤田さんですけども、大学で生涯学習を専門にしておられるということと、石川県の野々市市の方で新しい図書館の立ち上げの委員長もしておられたことを聞いていますので、ぜひこの黒部でも、委員長をしていただいてその経験を生かしていただけたらなと思っています。

○事務局 ありがとうございます。今ほど、A委員さんから、藤田委員さんを推薦するというご発言がございましたが、皆様いかがでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

○事務局 異議なしということですので、皆様の拍手を持って決定したいと思います。よろしく願いいたします。

【拍手全員】

○事務局 拍手全員であります。ありがとうございます。それでは、藤田公仁子さんを委員長に決定したいと思いますので、よろしくお願い致します。藤田委員長には策定委員会について大変ご苦勞をおかけしますが、よろしくお願い致します。

藤田委員長には委員長席にご移動をお願いいたします。

それでは藤田委員長から、ご挨拶をお願いします。

○委員長 藤田でございます。どうぞよろしくお願い致します。今回の計画ですけれども、交流センターということだけではなく、図書館ということが入っております。これからの図書館は今までの図書館と違いまして、やはりこれからどういう図書館の姿にしていくのかというところは、それぞれの地域によって、特徴を出してきております。地域の中で賑わいづくりの図書館、学び・集う図書館、それから居場所づくりの図書館と、いろいろな図書館がございます。ですから黒部市民にとって、これから将来どのような図書館が必要なかを視野に入れながら、今回ご議論というところが中心になっていくのかな、と思います。それと市民交流センターということでございます。となりますと、図書館に限らず、ちょっと学びたい、ちょっと集いたい、それからちょっと相談したいなとか、そういうようなところの居場所というところで、その拠点となるところも、いま、求められているところがございます。やはり、いま、一人でどうしようかな、子育て世代が悩んでいたたり、シニア世代がこれからどういう学びを展開していくのかというところは、今回の交流センターの行方というところにかかっているのかなと。その根幹となる議論、その根幹となるワークショップというところで、市民の皆様のご意見とか、要望とか、それから市のビジョンというものが、そこでいろいろ重なり合いながら、市民協働の本当の姿の交流センターが生まれてくるのではないかなというふうに期待したいところでございます。私

も本当に微力ながらというところはございますけれども、いままで研究してきたこと、経験したことをすべて出し切ってお手伝いさせていただけたらと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。ご挨拶に代えさせていただきます。

【拍手全員】

○事務局 どうもありがとうございました。それでは、藤田委員長に引き続きの議事進行をお願いしたいと思います。

○委員長 それでは、会議を進行させていただきます。着席したままで失礼いたします。

続きまして、要領第4条第3項の規定による、副委員長の選出を行います。いかがいたしましょうか。

○B委員 この度は、委員長に大学教授の女性になっていただいたということで、嬉しく思います。

副委員長におきましては、委員長をサポートする役目と思いますので、藤田委員長から適任者を推薦されてはいかがかなと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

○委員長 あ、それではよろしいでしょうか。私の方から指名する形でよろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

○委員長 それでは、私の方で指名させていただきます。副委員長ですけれども、これまでも「(仮称)くろべ市民交流センター建設基本構想」の取りまとめをリードされてこられました上田洋一様をお願いしたいと思います。それから、新幹線開業イベントなど各種の市民参画イベントのリーダーとしてご活躍されております中尾晃司様、よろしく願いいたします。お二人にご就任をお願いし、本委員会の運営をサポートしていただきたいと思っております。

皆様の拍手で確認したいと思いますので、拍手をお願いいたします。

【拍手全員】

○委員長 ありがとうございます。それでは、上田委員と中尾委員に副委員長をお願いすることで決定いたしました。また、要領第4条第4項の規定による、本委員会の下部組織の「ワークショップ」座長についても、副委員長のお二人に兼任していただきたいと思っております。副委員長の職と併せて、大変ご苦勞をおかけいたしますが、よろしく願いいたします。

それではここで副委員長からご挨拶をいただきたいと思っております。

○C副委員長 副委員長を仰せつかりました上田です。中尾さんは、大変お若い代表で結構だと思います。私は一番年長者だからだと思っておりますけれども、先ほどご紹介いただきましたように基本構想に多少かかわってきたことということがあります。黒部市立図書館をどうするかということに関しては10年近く前から議論をしてきた経緯もあります。藤田委員長をサポートしていい審議ができるようにしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○D副委員長 中尾晃司です。よろしく願いいたします。今ほど、副委員長の指名をいただきまして、本当にありがとうございます。私も新幹線等、いろいろなところにかかわり、黒部市のことを非常に深く考えておるわけでございます。同じく副委員長に就任した上田さんは、先輩として尊敬しておるところでございます。私も子どもが何名かいるのですが、自分の子どもや若い世代の立場や考えを述べていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

.....

協議事項（２）（仮称）くろべ市民交流センター

管理運営計画の諮問

○**委員長**ありがとうございました。それでは次に協議事項（２）くろべ市民交流センター管理運営計画の諮問に移ります。

まず、市長様の方から委員会に対して諮問がございます。

○**市長**（仮称）くろべ市民交流センター管理運営計画策定委員会委員長様

（仮称）くろべ市民交流センター管理運営計画の策定について（諮問）

（仮称）くろべ市民交流センターの整備に向け、その具体的な施設運営の方向性を定める管理運営計画の策定を諮問いたします。黒部市長、堀内康男。よろしく願いいたします。

○**委員長**ただいま、堀内市長様から諮問を受け取りました。ありがとうございました。ここで堀内市長、次の公務がありますので退席されます。

○**市長**皆さんよろしく願いいたします。

【市長退席】

.....

① 管理運営計画（メインコンセプト・検討項目）

○**委員長**それでは続けさせていただきます。堀内市長様から諮問を受け取りました。（仮称）くろべ市民交流センター管理運営計画の策定について、確認の意味も含め事務局から説明をお願いいたします。

○**事務局**6ページをご覧ください。座って説明をさせていただきます。「（仮称）くろべ市民交流センター管理運営計画の策定に係る基本方針等について」ご説明いたします。「1 管理運営計画策定の目的」としましては、（仮称）くろべ市民交流センター建設については、平成23年3月に、黒部市図書館建設検討委員会により「黒部市立図書館建設基本構想」の策定、平成27年8月の黒部市役所庁舎跡地活用検討委員会により「黒部市役所庁舎跡地活用に関する提言書」が策定されました。平成29年3月には、（仮称）くろべ市民交流センター建設基本構想策定委員会により、（仮称）くろべ市民交流センター建設基本構想報告書が策定され、平成29年6月、市議会定例会において議決されました。

これまで市民参加のもと、多くの検討が重ねられ、

- ・旧黒部市役所跡地に建設する点、
 - ・建物は4階建てで、3・4階に「図書館・子育て支援機能」を配置する点、
 - ・概算事業費は27～28億円を目安とする点など、
- 合意形成により、基本構想が策定されたところです。

今後、この基本構想を踏まえ、図書館を核とした（仮称）くろべ市民交流センター整備に向け、具体的に実施できる事業の方向性を示し管理運営体制を検討する必要があります。詳細な事業内容をはじめ、様々な角度から分析・検討を加えながら、施設全体としての具体的な管理運営計画を策定することを目的とします。

なお、今回の管理運営計画の策定にあたっては、事前にお渡ししております「（仮称）くろべ市民交流センター建設基本構想」を前提に議論していただき計画の策定を行うものがあります。これまでの取り組み経過については、次のとおりとなっておりますので、また参考をご覧ください。

続きまして7ページ、「2 管理運営計画の位置づけ」としまして、基本構想に基づく、管理運営の具体的な方針や事業内容を定めるものとします。

「3 管理運営計画の策定目標（時期）」としましては、平成30年3月から平成31年3月までの策定を目指すものとします。

「4 管理運営計画に記載する項目」としましては、後ほど資料にてご説明いたしますが、メインコンセプトを設定しながら管理運営計画の各項目について検討を進めることとします。

「5 管理運営計画策定の推進体制」としましても、後ほど資料にてご説明いたしますが、(1)策定委員会等の設置として学識経験者を含む策定委員会を設置、また下部組織として、「ワークショップ」を設置し、策定委員会提出議案について事前に調整しながら合意形成を図ります。(2)庁内検討会の設置により、庁内におきましても情報共有と共通認識を図るため、関係部課長で構成される庁内検討会等を開催し協議を行います。

「6 管理運営計画策定スケジュール」としましても、後ほど資料にてご説明いたしますが、平成30年度末までに、策定委員会7回、ワークショップ8回を開催予定しており、検討を進めることとします。

「7 市民に対する情報提供」としましては、管理運営計画の策定に関しては、市民の関心が高い事業であることから、(1)市ホームページを活用した審議状況の公開、(2)パブリックコメントの実施等により市民への情報提供等に努めるものとします。基本方針についての説明は以上です。

○委員長はい、ありがとうございます。ただ今のご説明に対して何かご意見、ご質問等はありませんでしょうか。いかがでしょうか。いままでのところでは5番目のところの「管理運営計画策定の推進体制」というところで策定委員会の設置とそのあと庁内検討会の設置ということで、2本の会議を置きながら行くという形で。このところで市による協働という部分が生まれてくるということになるかなということ。スケジュール的なもので、策定委員会7回、ワークショップを8回ということを出ております。それから、やはり一番大切なのは市民に対する情報提供ということで、市のホームページを活用した審議状況の公開。これはすごく、市民に対して、どういう形になっていくのかなと、どういうものができてくるのかなというものが見える形で、視覚化で示していくということなので、すごく行政としては思い切った心意気が見えるところかなというふうに考えております。パブリックコメントの実施ということでございますけれども、いかがでしょうかご質問、ご意見ございますでしょうか。いかがでしょうか。

一つだけ確認させていただいてよろしいでしょうか。7番目「市のホームページを活用した審議状況の公開」という中で、もし市民の皆様から問い合わせとか、質問があった場合というのは、その都度お答えする形でしょうか。それともパブリックコメントまでお待ちして、その部分ですべてお答えするという形でしょうか。もしご検討されているのであれば、お答えいただければと思います。

○事務局どういうご質問の内容になるかわかりませんが、その時点で確定的なものについては、お答えできる範囲内で答えしていきたいというふうに思っております。

○委員長はい、わかりました。ありがとうございます。では、C副委員長さん。

○C副委員長私達はワークショップの座長ということもありますので、ちょっとワークショップの内容とか、具体的にどういうことをするのかもう少しちょっと説明をお願いできないか。

○委員長事務局の方でよろしくお願いたします。

○事務局資料の17ページにも少し記載してありますけれども、ワークショップについては策定委員会の下部組織として、策定委員会に提出する素案について調整する作業的な部会として今回設定しておりますので、関係団体の実務関係者より構成しているところでござ

います。ワークショップの進め方につきましては17ページの下の方に記載しておりますので、後ほど説明したいと思います。

○委員長ワークショップは後ほどのご説明であるとのことによろしいでしょうか。詳細にご説明があるものと期待したい所でございます。他にございますでしょうか。いかがでしょうか。今の段階で確認したいとかがございますでしょうか。それでは、ご説明いただきました内容を基本に今後進めていくこととしたいと思います。次に進ませていただいてもよろしいでしょうか。

次にメインコンセプトですね。検討項目に移りたいと思います。

○事務局それでは、資料3-2の方なのですが、画面の方にも同様のものが出ております。ご説明をしていきたいと思えます。「(仮称)くろべ市民交流センター管理運営計画 メインコンセプトの設定について」でございます。

まず9ページ目の方をご覧ください。ここでは、社会的なニーズや背景について例示してありますが、「学生・若年」として“勉強場所がない”“遊ぶ場所がない”など、「子育て世代」としては“困ったときに相談する相手がほしい”“情報交換したい”など、「壮年・高年層」とりましては“自分の持つスキルを役立たせたい”“もっと大事にしてもらいたい”など、「企業」としては、「人材確保」「社会貢献」など、一般的に各立場において様々なニーズがあります。

一方、社会的な背景としましては、先ほど市長の挨拶にもありましたが「少子高齢化時代における、未来に向けた投資」「施設運営の推進力としてのターゲットが必要」「人口減少時代の財政規模にあった都市経営」という課題にも対応していく必要があり、事業の実施にあたってはそういうもののバランスが重要となってくるという背景がございます。

続いて10ページ下の方でございます。今回の「(仮称)くろべ市民交流センター管理運営計画」策定の前提となる「基本構想」についてここではおさらいをいたします。旧黒部市役所跡地という立地において、「図書館」「子育て」「生涯学習」「ビジネス」「市民活動」の5つの機能の融合による、ということがこの施設となっております。市民の知的好奇心を満たす多機能を有する市民のための交流拠点としておりまして、下の赤太字で書いてありますが基本コンセプトとして「市民が集い学ぶ文化・交流の拠点」ということを基本コンセプトとしております。

めくっていただきまして11ページでございます。「基本構想」の5つの機能の立ち位置について説明しております。チャートの中心にあります図書館を核にいたしまして、図書館が「子育て」「生涯学習」「ビジネス」「市民活動」を束ねまして、これら5機能を融合しまして新たな価値の創造を目指していきます。そして、施設内で展開される具体的な事業の実現に向けまして、今回の「管理運営計画策定委員会」の皆様の議論をナビゲートするために、『わたしのサードプレイス』という“メインコンセプト”を今回設定させていただいているということでございます。

12ページをご覧ください。このページではメインコンセプトについての説明をさせていただいております。まず、「サードプレイス」という言葉についてですが、右側の黄色の箱の部分に細かい字で書いてございますが、「自宅・職場・学校ではない、一個人として、くつろぐことができる第三の居場所」ということで、アメリカの社会学者さんが提唱したものであります。「無料または安価で利用できる」とか「アクセスしやすい」など快適で居心地がよいという点が特徴で、日本では、このサードプレイスの概念をコンセプトとしてコーヒーショップのスターバックスが営業しています。

左側に戻って頂きまして、「私のサードプレイス」について順番に説明いたします。まず①ですが「居心地の良い自分の居場所」気軽に寄れ、集える場所で、つい時間を忘れる

くらい長く滞在でき、いつでも戻ってきたくなる場所。②といたしまして「市民生活を豊かにする場所」。「子育て」「結婚」「セカンドライフ」などライフステージに応じた問題解決に役立つ場所。③といたしまして「自らの可能性に気づき、挑戦する舞台を探す場所」進路（進学・就活・起業）について探究する場所。

このようなコンセプトがございまして、このような施設内の雰囲気の中で、（仮称）くろべ市民交流センターは、サードプレイスとして市民の皆様の新たな価値の創造をアシストする役目を果たしていきたいというのがコンセプトでございます。

下の図では、図書館を中心として各機能を束ねてご説明をしております。①が黒部市立図書館です。『ライフステージ』をアシストということで、一つ目、市民生活を豊かにする「本・情報・知の拠点」として、人生の課題・問題の解決、進学・就業・子育てなど若年層の巣立ち、あるいは生涯学習・自己研鑽をアシストする。2番目に、「人と人」「人と本」「人と情報」を結ぶとともに、仲間探しや各世代の交流により、知恵袋の「人材図書館」として、互いに成長することから生まれる価値や創造、まちの賑わいや魅力づくりをアシストする。3番目といたしまして、誰もがいつでも気軽に行ける、また行きたくなる憩いの場所として、滞在したくなるイメージを醸し出し『わたしの“サードプレイス”』というコンセプトをもとに、萌え出る知的探求心をアシストする、でございます。

②として『子育て』をアシスト。妊活期から出産・子育て期までの様々なシーンの相談機能を含めて、情報収集ができるとともに、市民参画のもと、子育てしやすい知恵の拠点としてアシストする。

③『生涯学習』をアシスト。様々なライフステージに応じた活動を通して、人間性・道徳性を育み、豊かな人間発達の拠点として、市民の生涯学習をアシストする。

横の④です。『市民活動』をアシスト。市民が主体的にまちづくりに関わり、人々が交流し、新しい価値観を探求し、新しい文化の創造力・発信力、社会への適応力を育むなど市民活動をアシストする。

上の方に行きまして⑤『ビジネス』をアシスト。学生のうちからあらゆる可能性を引き出し、個々の活躍の舞台にナビゲートする知恵袋の拠点として、市民参画のもと、進学・就活・起業など巣立ちに寄り添い、明日を切り開く力を育むなど青少年やビジネスをアシストする。以上がメインコンセプトの説明でございました。

続きまして13ページ目でございます。ここからは「事業内容のイメージ」をご覧ください。この部分が、今回の管理運営計画の要の部分でありまして、委員の皆様方に特にご議論いただく主要部分となっております。

1番目は黒部市立図書館ということで、「①知的好奇心をくすぐり、楽しみやすく、わかりやすい配架・ディスプレイなど、人々を惹き付ける演出」等記載の通りのものですが、このような仕様内容について議論いただくこととしております。

2番目「子育てをアシスト」です。「①子どもの声や会話が聞こえる交流の場を設け、親子が声を出して本を読めるソファや“親子くつろぎスペース”」など5番目まで記載されておりますが、このような事業内容について、議論いただくということを考えております。

3番目「生涯学習をアシスト」です。「①生涯学習・自己研鑽等の活動場所や成果の発表機会の提供」など3番目まで書いておりますが、このような事業の詳細についてご議論いただくことにしております。

4番目の「市民活動をアシスト」ですが、「①ホール・会議室の提供（一般、事業者など）」と記載されておりますが、このような市民活動について事業内容を議論いただく予定にしております。

5番目に「ビジネスをアシスト」ですが、「①中高校生などU-18コーナーは、学校を離

れた『もう一つのクラスあるいは部活』として、あらゆる可能性について探究でき、若者が躍動する場所として演出」など4番目まで記載しておりますが、このような事業内容について議論していただくこととしております。

また「共通」のところでございますが「①気軽に利用できる飲食コーナーの設備」ということで、このような共通項目についても議論していただく予定にしております。このページでは、事業内容の項目を例示させていただいておりますが、こちらに記載の内容も含めまして、2回目以降に具体的な内容をご提示いたしまして、ご議論いただく予定としております。

次の14ページ目でございますが、「ポジショニングマップ」と「期待される効果」についてご説明いたします。事業を実施する以上、ある程度のターゲットを設定しながら、社会的利益となる事業成果を求めていくこととなります。

本市では、蔵書数や家具の高級さなどを追及していくのではなく、『わたしのサードプレイス～家でも、学校でも、会社でもない。自分の居場所～』として、特徴的な事業が訴求点となる施設を目指しております。期待されるアウトプットとして、時代を担う、子育て世代を含む、若年層の成長に対して、あらゆる世代が関与するなかから、「①家でも学校でもない“サードプレイス”として、可能性を秘める若年層をアシストすることで、彼らオンリーワンの潜在能力を発揮させる」「②若年層に対して、その上の世代や地元企業が、彼らのすだち（就活情報・進学・子育て・起業など）を応援する。高年層が若年層に技を伝授する」「高年層が若年層の発想に刺激を受ける」「若年層が成長し黒部の活性化の推進力となる」「同世代間で切磋琢磨する」など、影響しあうムーブメントにより、黒部において新しい文化の創造を期待する。」「③そして、成長した若年層が、次の若年層のすだちを支援していくという、永遠の循環を構築することが、本市の長期的な戦略となり、「市民交流センター事業」自体が、世代間を繋ぐ切れ目のない人材育成の役割を担う。」ということをご期待される効果としてあげております。

最後に15ページでございます。（仮称）くろべ市民交流センター建設に関する全体スケジュールを記載しております。一番上の行になりますが、平成28年度に「基本構想」が策定され、平成29年6月に議決を受けております。そして今回、2行目ではありますが、委員の皆様方に今回ご検討いただく「管理運営計画」は30年度末までに策定することとしております。4行目の方には、30年度途中から基本設計を想定してありまして、この管理運営計画の事業内容を注視しながら設計を進めていくということになっております。その他、並行して、測量・調査にも取り組みまして、早ければ平成32年度に工事着手することを想定してございます。

メインコンセプトの説明については以上です。

○事務局引き続き16ページをご覧ください。資料3-3になります。「『（仮称）くろべ市民交流センター施設管理運営計画』検討項目」についてご説明いたします。

基本構想に基づきまして建設を予定しております施設の具体的な管理運営に関して、本委員会において皆様にご審議していただくことになっております。その検討項目の一覧表が、14ページに記載されているところがございます。項目につきましては、あらかじめ2つのグループに分けております。各施設の利用方針、それから事業内容など、特に重要な内容につきましてはワークショップで議論した後、本委員会に提案、そして確認するという流れの項目、これが黄色い色で示してありますA項目としております。基本構想に基づきまして、事務局であらかじめ前提条件を示して確認していただく項目は青いB項目として示してあります。

さらに、学生に特化した内容の検討項目につきましては赤い色のU-18と別枠にしている

ところでございます。皆様に、審議、確定していただいた各項目につきましては、その後取りまとめまして、管理運営計画を最終的に冊子にする予定にしております。この表につきましては、その冊子の目次というふうに考えていただければ分かりやすいのかなと思います。

また表の右半分になりますけれども、各項目の審議する委員会の時期を掲載しております。先ほど申しましたけれども、A項目につきましては、それぞれワークショップで議論して、その後、本委員会で提案、内容を審議して、次の会に確認するということになります。

それから、青いB項目については事務局の方で条件を設定して、内容を本委員会で審議する。そしてそれを次回の委員会で、確認していくという流れになっております。U-18の方につきましても、こういう流れになります。

ワークショップは、昼・夜合わせて8回、それから本委員会につきましてはメインとなります図書館の機能、事業項目・事業検討2回を含めまして7回の委員会の開催を予定しております。

そして来年1月のパブリックコメントを経まして、同じく来年の3月頃には市長への答申という流れになっているところでございます。約1年間かけて皆様にご審議いただくこととなりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

なお、この開催時期につきましては、議論や進捗状況等の変動によりまして、変更する可能性もあるということも申しておきたいと思ひます。

以上、資料3-2と3-3の説明を終わります。

○委員長はい、どうもありがとうございました。それでは、ただいまちょっと一番核となる部分のご説明だったと思うんですけども、ご質問、ご意見ございましたら賜りたいと思ひます。いかがでしょうか。ワークショップの方のご説明の方、よろしいでしょうか。もうちょっと内容詳しくということはございますか。C副委員長さん。

○C副委員長いや、あの、17ページを見て、分かったのでよいです。

○委員長はい、よろしいですか。何かございますでしょうか。いかがでしょうか。この部分が分かりづらかったとか、もうちょっとここ部分説明してほしいということはございませんでしょうか。

○A委員サードプレイスという言い方なのですが、僕はちょっとなじまないの、本当にいま、使われつつある言葉なのかな。将来的には、なじんでいきそうな言葉ですか。なんとなく古い人間なので、サードプレイスって何かないと思ひました。ちょっと、聞いてはいましたけども、なんとなく、僕、体になんかなじまないような気がして。これが逆に、委員長の方に、サードプレイスという言葉はいま、使われるつつある言葉なのか。体になじまない。委員長の方に、あの、サードプレイスという言葉は、結構これから世の中に、流通しそうな言葉なのか。

○委員長そうですね、この世の中というよりは、一番の根本的なところは、黒部市さんのコンセプトの中に、必要か必要じゃないかという部分だと思うんですね。そのところで考えたところ、いままでの議論をずっと積み立てている中に、いまご説明がありましたけれども、このまちをどのようにつくっていくのか、どういう人を育てたいのか、それから人を育てるということは、やはり地域の文化とか、次世代にどう継承していくのか。そういうことを考えていったときに、やはり集うところ、そして人が集って学ぶところ、それからいまの学校、家庭、地域の中では解決できる部分と思ひて進んできましたけれども、やはり何よりも居場所づくり、自分がほっとできる場所、それから学べる場所。そういうような自分の居場所っていうところを、交流センターがどういう機能で与えられるのかと

いうところに、このサードブレイスという言葉がいままでの議論の中で、きっと一番これから求められるものだろうということで据えたと私の方では解釈しております。

ただ、今後について、どうなっていくのかというより、このサードブレイスを、正直いまして、これ社会学者が考えたことですから、これをどのように黒部バージョンに変えていくのかというのが、この委員会の議論かなと思っております。ですからその内容について、こういうような事例があったよ、こういうものを目標にあてはめたいというところは、一つあります。これを具体的にどのように落としていくのかというのがこの委員会の議論ですので、いまのところここがスタートでもかまわないと考えておりますがいかがでしょうか。

○A委員 分かったような、分からないような感じですけども。まあ、逆にもっともっとしっくりくるような言葉が見つかってくればそっちでも。

○委員長 いままでの言葉であれば。

○A委員 サードブレイスといわれても、きちっといま説明されたからわかるようなものの、一般の方々にこの話をしたときに、なんとなくこれだと、僕はまだ説明できにくいという風に思ったものですから。

○委員長 きっと居場所づくりという言葉で、いままで文部科学省の方の言葉としておさえてきた部分かなと思います。学ぶ拠点、集う拠点、活動の拠点という形で、居場所というものを社会教育施設側に置き換えてきた言葉なのかな。置き換えるとそういう言葉になるかなということですけども、これからの将来を考えたところでは、それでは物足りない、解決できない課題がいっぱいあって、そこにどういう言葉を添えるのかとなったときに、今までの議論の中でサードブレイスと置いたのかなと思っています。きっといままでの固定概念のある言葉では解決できない複雑な社会になってきているということで、どういうものを求めていくかということ、十分にここで議論しませんか。その方がしっくりいくと思います。

○A委員 わかりました。

○委員長 いかがでしょうか、委員の皆様。私がこうやってやり取りしていても、私がいうより、委員の皆様からきつといままでの議論とか、いままできつと事務局側からの説明もいろいろきいているかと思う中で、受け取り方はいろいろあって、人数がいたらその人数分の受け取り方があるのは当然だと思いますので、その中で、逆にこの部分が大切じゃないかとか、またこの部分をプラスしてもいいのではないかということは、この場でご意見を出してもらえればよいかと思います。たとえば子育て世代のこととか、いろいろな形で、こういうところを求めているのではないかということ、どうやったら今度の新しい市民交流センター、図書館に求めるということにあてはめていけばいいと思うんですね。いかがでしょうか。

○E委員 言葉的には、Aさんがいわれたように、サードブレイスという言葉はなじめないのですけれど、その注釈してある居心地のよい自分の居場所とか、先生がいま言われました、人がほっとできる場所というのは、私たちが常々親子さんが遊びに来ての場所づくりとしては、そのようなものを基本に掲げておりますので、こういう面については、そうだなというふうに納得できます。ただやっぱりサードブレイスでいう言葉になじめないというのは、私も「え、何」と思いましたけれど、内容はわかる。それでいま言われたように、わかりやすい黒部バージョンということで考えていくということはよいのではないかと思います。

○委員長 ありがとうございます。D副委員長さん、若い世代ってどうですか。

○D副委員長 今の点ですが、私もわからなかったので事務局に確認しましたよ。そうした

ら、第3の居場所とか、居心地の良い場所。それを用語にされただけなので、まあどっちでもよいのですけれども、それを市民の方にいうのであれば、これはそうやって読んでいいんじゃないでしょうかね。

私は逆にこれよりも、昨年ですか、去年まで決まったこと、しっかり去年のメンバーで決めたこと、ここはぶらしてほしくないよとか。そういったことの確認を実はしたくて。

○委員長はい、わかりました。そうしましたら、まず、言葉については、いま、このように事務局からご提示された、いままでの継続の事案でございますので、このまま置いて、ということでひとまずよろしいでしょうか。

その上で、確認の部分ですよね。「核」の部分ですね。これだけはぶれないという。

○D副委員長去年のメンバーから、今年のメンバーも、しっかり受けたいなど。

○委員長私もすっかりうかがって、受け止めたいと思いますので、事務局の方でその部分、お願いいたします。

○事務局はい、あの、皆様のお手元にですね、基本構想と基本構想の概要版2種類をお持ちだと思います。これにつきましては、去年の6月に議決をいただいた内容になっております。この中では、主な大きな内容としましては、事業費は27～28億円という事業費を設定させていただいているということ。それから4階建ての建物で、高層階3階、4階に図書館を設置するというのが主な内容となっております。これにつきましては基本構想で定められていることなので、この内容は変わらないことを前提に、皆様でご議論していただきたいと思います。

○委員長ありがとうございます。その部分はぶれないでというところで、ばっちり固まってしまっているよというところだと思います。G委員さん、よろしいでしょうか。

○D副委員長はい、よくわかりました。27～28億円より下ならよいのですか。「これを超すな」ということですか？

○事務局下ならよいということです。

○D副委員長わかりました。了解しました。

○委員長他にございますでしょうか。一回目ですのでどんな意見でもよろしいかと思えます。承りたいと思います。だんだん進んでまいりますと、戻るのがなかなか議論というのが難しくなりますので、今の時点で確認したいとかありましたら、お知らせいただければと思います。

○F委員私も言葉ということについて若干こだわりがありすぎるのかもしれませんが、このコンセプトを先ほどから聞いていて、たいへん横文字がひじょうに多い。大体意味はわかるが、あえてこんなに横文字をたくさん使う必要はあるのかな、という感じが私からしました。新しい施設をつくるのに、わかりやすいイメージを市民に持っていただくのが大事なのではないかなということが大前提としてあるのではないかと私は思います。以上です。

○委員長市民に対して、どのように説明していくのか、また、どのように提示していくのかは、本当に基本的に大切なことなのでございますので、今後についてなるべくわかりやすく、市民にお伝えしていくのもこの委員会の仕事なのかというふうに思っています。そのような方向性で、事務局はよろしいでしょうか。大丈夫ですか。はい。では確認しましたので、その方向性で進めたいと思います。他にございますでしょうか。

○C副委員長はい。

○委員長C副委員長さん。

○C副委員長サードプレイスについて、「第三の男」という映画がありますけれども、内容はいいとして、やっぱり新しい空間をつくるんだという積極性を、横文字を借りるので

はなく、もう少し創造性というか、新しい空間をここで目指すんだというような表現が欲しいなというのが一点と、コンセプトがとても丁寧に、盛りだくさん出てまして。逆に、たとえば、交流センター全体はいいのですが、図書館はやっぱりこう、スパッと一つ、こういう図書館が大事、いろんな図書館、いろんな目指すところがあるかと思うのですけれども、「全国、どこよりも子どもを大切にする図書館を目指す」とか、ひとつわかりやすく。そして、子ども支援というのは、図書館だけじゃなくて、いろいろな形で子どもの支援というものがあるわけですが、図書館に求められているのは、豊かな創造性とか。なんというか、図書館だから子どもを大切にするんだという要素が欲しいかな。機能性があるので、メンタルな部分で目指す部分の表現が欲しいなと考えました。

○委員長本当に重要な部分ですね。やはり箱モノはできたけど、ソフトはね。ソフトはできたけど、魂はねというメンタルな部分は、とても重要な部分ですので今後についてやはり議論を進めていければと思います。策定委員会も最初6回と聞いておりましたけれども、7回というふうに回数が増えております。議論する機会は十分にございますので、その部分を十分に議論したいと思いますがいかがでしょうか。ご意見はご意見としていま記録を取りまして、その上で議論を進められればと思います。やはり、子どもということもあるのですが、高齢化社会ですのでシニアということもありますし、子育て世代ということもあります。やはり、働く人ということもあります。小中高生ということもあります。あらゆる世代の中で、皆様が豊かに学べるような空間、学べるような居場所。また、時間を共有できる場所になっていければ次世代に対してのこういうような図書館で育ったんだとか、こういう図書館が地元にあったんだ、故郷にあったんだという図書館ができていければよいなと願うばかりですので、図書館のところで熱く議論しませんか。いかがでしょうか。はい、ではそのようにしたいと思います。その部分については、事務局で、進行の過程については問題ございませんか。

○事務局はい。

○委員長あと、ございますでしょうか。

○G委員私は、たくさん英語が出てきて困ったなと思ったのですが、この機会に学ぼうかなと。自分の中に、取り入れてみたいなという感じで読ませていただきました。U-18という、子どものことなのでしょうけれども、家とか、もう一つの学校外でのクラス、部活するところという説明がありましたけれども、これもサードプレイスという考え方でよろしいでしょうか。

○委員長では、事務局でご説明ください。

○事務局U-18は「アンダー18」といって、よくサッカーとかでありますけれども、高校生以下の学生さんたちを対象としたイメージを持っていただければ結構かと思います。今のいろんな居場所の話につきましても、これから次代を担う若者、学生さんたちの意見がとても重要かと思っておりますので、検討項目の中にも学生さんたち、いま考えておりますのは、桜井高校生の方々からご意見をいただいて、それをこちらとしても重要な意見として取り入れていきたいなという思いで書かせていただきました。

○G委員すばらしいと思いました。U-18の家でも学校でもなくもう一つのクラス、部活として自分を発揮できる居場所のあることは救いの部分も感じられて素晴らしいと思います。

先ほど『第三の男』とおっしゃいましたが、定年後、特にサラリーマンのその後の生き方に、無所属となった辛い面もあるかと思います。これまで培ったビジネススキルを活かしうまく乗り越えていける居場所として理想的な生き方をアシストする図書館になればと思う。本のある人生で豊かに折り返すシニアの老いの循環を若者に見せることも大切な教育的意味を持つと考えます。休館日が無くなる程の人気の場になればと思います。

○事務局今のご意見を参考にして行きたいと思っています。当然U-18学生もそうなのですが、あらゆる世代の居場所をここに作り上げていければという思いで、このようなコンセプトを挙げさせていただいているので、その点についても十分検討したうえで、皆様にもご理解いただければと思っています。よろしくお願いします。

○委員長高校生の意見を取り入れるというのは、いま全国的にいいましても最先端の部分で、高校生がまちを変えていくとか、高校生が新しい地域をつくっていくとか、地域の担い手をどのように育てていくのかというのに高校生に焦点を当てているところが、全国的に成功している事例っていっぱいあるんですね。ですから、黒部市さんも最先端を走るんだという風に思って、私の方は受け止めておりました。U-18に対する期待とU-18からの意見は率直に出てきますから、とても刺激的なことが出てくると思うので、ワークショップに期待したいなと思います。あの、一言もご発言がないようにしたいなと思いますけれども。はい、では牧野委員さん、どうぞ。

○B委員U-18は、いいんですけれども、お年寄りの方はどこに当てはまるんでしょうかね。学生たちの気持ちはわかるんですけれども、お年寄りの方が暇というか時間を持て余していると思うんですね。三日市にはたくさんのお年寄りもおりますし、ふらふらしている人もいますので。生涯学習に入るかとは思いますが、その生涯学習にも入らない方もいらっしゃると思いますので、U-18ではない形のもので表していただきたいなと思います。

○委員長そうですね。この生涯学習はライフ・ロング・ラーニングといって一生涯ということになりますので、生涯学習機能というところにはまってくるかとは思いますが、これもまたご議論がございまして、実際に則したものでご議論を進めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。その時、いろいろな形でご意見を出していただければいいなと思います。それが新しい一歩になっていくと思います。事務局の方で、補足することはありますか。

○事務局今、お話がありましたように、たとえば13ページの「ライフステージをアシスト」の中でですね、3番「生涯学習をアシスト」というところ。この中に、公民館機能、また市民会館等の機能があります。その中で、自己研鑽だとか、いろんな発表の機会だとかというところも出てくるかと思えます。その部分で皆様の活躍する場というのが、十分に発揮されていくと思いますので、この部分も含めて、これから議論の対象になるのではないかなと思っています。

○委員長はい、ありがとうございます。いま、人生100年という風にいわれております。100年に向けて、あらゆる世代に向けて利用しやすいというのが一番のコンセプトの根源になっていくのかなと思っています。ぜひ、議論しましょう。熱く語ってよいかと思います。他にございますでしょうか。

○D副委員長確認、よろしいですか。資料3-4と3-5なのですが。まずは、ワークショップを3月の下旬に行いますよと。U-18ということで、高校生以下の方ですか。1回目。それで、3-5の資料に行きますけども、4月に庁内のワークグループ、庁内検討会とか。そして、1・2のワークショップがあつて。これ、昼・夜というのが、先ほど上田副委員長がいったように昼と夜の部があると。それでまた我々の第2回のが5月にあるわけですね。こういうのを繰り返すわけですね。それで、ワークショップでた要望とか、案とかを、議案といったものをどんどん出してもらって、そういった資料が次の策定委員会にはでてくるということですね。

○事務局そうです。

○D副委員長それって、このワークショップについてなのですが、昼夜は何時何時という

イメージの時間帯を確定しているのでしょうか。

○事務局 時間的なものについては確定しておりません。

○D副委員長 じゃあまた後程、議長には何らかの形で連絡が来ると。

○事務局 はい、これにつきましては、日程的なものをまずは調整した上で、時間を座長と
なられる方々に、まずはご相談する形になるかと思えます。

○D副委員長 じゃあ、この策定委員会が、ワークショップから出てきたいろいろなアイ
ディアなんかをこちらで、「それはいいね」とか。

○委員長 参考にしつつ、議論を進めていく風に解釈していただいでよろしいでしょうか。

○D副委員長 そういう認識を我々が持つておればよい。

○委員長 というのは、ここの部分はすごく難しいところなんですけれども、「そうだよ
ね」となり得る部分と、なり得ない部分が出てくる可能性があります。ですから、その部分
は行政はここまでできますということが、やはりあるかなというところもありますし、私
たち委員の中では、やはり委員それぞれの立場とか、いろいろなバックグラウンドの中
で、こういう意見がありますということもプラスにしながら、意見交換しながら、一歩
ずつ前に進んでいくという形になっていくのかなと思えます。

○D副委員長 はい。

○委員長 基本的にワークショップは、市民の皆さん、参加者の対象者の方が、参加し
やすい時間に設定するのも、ワークショップの一つの手法ですので、方法論ですからな
べくその時間帯になるのではないのでしょうかと期待したいところなんです。行政の都合
のいいようにではなく、ワークショップを設定しますという風に表明したというところ
かな、とも思えます。そのような解釈でよいですね。

○事務局 いまご質問のあった3-4と3-5につきましては、このあと、もう一度、詳しくご
説明させていただきます。その中で時間帯等につきましても、ご提案させていただき
たいと思えます。

○D副委員長 はい、お願いいたします。

○委員長他に何かありますでしょうか。それでは、(2)②の「今後の協議方法及びス
ケジュール」に進んでよろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

○委員長 それではそのように進めさせていただきます。

○事務局 それでは資料3-4、17ページの方からご説明させていただきたいと思えます。
まず、策定委員会の位置づけ・役割が一番上段の方に来ています。開催回数は7回を
予定しております。この策定委員会では、ワークショップの提案なりアイデアなり、事
務局からの提案もあります、U-18では高校生の意見も出てきます。そのことを、皆
さんで議論していただき、合意形成の場にしていきたいと考えております。

行政だけの意見だけではなく、皆さんそれぞれのご意見があると思えますので、
そういったところを、まとめあげていく形になるかと思えます。ワークショップという
言葉が出ておりますが、策定委員会にいろいろ提案できる体制作りといたしまして、
関係団体等からの実践者の方をワークショップのメンバーといたしまして、議論し
ていただくということでございます。黒部市のワークショップの進め方として、施
設の整備の方針を理解していただいたうえで議論していただく。去年の策定委員
会で決められた基本構想を踏まえたうえで、議論されたこと踏まえたうえで黒部
市のまちづくりというものも考えていただきたいという思いを持っております。意
見を出すときには、参加者の公平な発言機会の場としてもよろしいのではないかと
考えております。一番右の黄色い枠の方では、ニーズ、必要性のある声、高校生
の意見を聞いてみるとか、パブリックコメントを取ることを考

えております。

続きまして資料3-5、18ページでございます。3月6日が第1回目の委員会ということで先日高校の方と協議しまして3月26日13:30から市役所で、高校生の方々の意見を聞くワークショップを考えております。高校生の方々にワークショップでどういう意見を出させたいかというところですが、高校生のみなさん、家に帰る前、学校から出た後、その時間をどう過ごしていたか。交流センターが居場所になるのではないかという気がしています。今の高校生は、どのような時間の過ごし方をしているか調査したいと思っています。また、その時間の過ごし方を、どのような施設だったらよいかを導き出したいと考えています。

ワークショップ後、庁内の担当課長のワーキングや庁内検討会で報告、情報共有しながら4月の下旬に第1回、2回のワークショップを昼・夜に開催して、その後、委員会を開催します。その繰り返しとなります。副委員長のお二方は、座長もありますので大変忙しくなるかと思いますが、是非ご協力をお願いしたいと思います。資料の最後に※印でかかれておりますが、議論の進捗状況により、会議の開催時間が変更の可能性もありますので、いまのところこのスケジュールで進めていきたいと思いますが、状況の変化について頭の片隅に置いていただければと思っております。説明の方は私から以上です。

○委員長ワークショップというのは、意見を聞くとか吸い上げるのではなく、ワークショップに参加する学生が学ぶ場であり、情報共有の場でもある。ワークショップの後、活動に対して核となる人間に育って行くケースも多い。第一段、触れてみる、参加してみる、こんな図書館があるよと知る機会にもなるので、有効な手段と判断されたのかなと思いました。副委員長の方々、時間もかかるとは思いますがご協力のほどよろしく願いいたします。いまの点でご質問等ございますでしょうか。

○G委員話はそれますが、どのような石川県立図書館が建つのか教えていただけますでしょうか。

○委員長素敵な図書館とうかがっておりますし、使いやすい図書館と聞いております。これからの図書館というコンセプトになっているのかなとうかがっております。詳細をとすれば、情報提供の機会をとします。先ほど市長とも話をしていましたが、石川県の野々市市図書館に関わりましたが同じ図書館ってないんですね。どういう図書館ができていくかは、そのまちのビジョン、人がどのような図書館を求めているのか。市民の声を聞きながら、叶えながら。そしていま、難しいところにきているのが、指導要領が、学ぶということと考え行動するという人をつくっていく。図書館の今までの活動の中に、特徴のある活動もソフト面を支えていかなければならない。本当に黒部でこのような図書館が欲しいということまずは、いろいろな形で出していただいて。高校生が寄りたい図書館ってどのような図書館なんだろうと、ただの居場所づくりだけではなく、学び行動することを考え、むすびつけられる図書館を、皆さんのご経験や意見で考えていきたいと思っています。叶うか叶わないかは、その何階建て、予算はいくらというご相談になっていくかなということもありますので、いろんな要望要求はよいと思いますよ。最後、叶えられるかどうかは、そぎ取られていきますから。相談、折り合いということになるのかなと思います。まずは委員会で、このような図書館がいいな、こういう交流センターがあればいいな。たとえば、どこどこのこういうものがあればでもよいかと思います。私が手掛けた野々市市の図書館は、岩手県紫波町のオガール、何もなくて図書館ができたまちの、1階で野菜を売っている図書館が注目を浴びています。九州では同じ地域に対局的な図書館があるところもあります。ですから、素晴らしい図書館は、いっぱい建っているの、皆さんもアンテナを立てながら、そこを十分検討して、黒部バージョンの次世代につないでいけるような図書館になればよいなと思っています。意見が気軽にいって議論になればと思います。

ワークショップは、よく踏み切ったなと思いますので、期待したいなと思います。

〇〇副委員長（仮称）はいつまで使う予定なのですか。説明のとき「（仮称）」が耳障りになってきている。ある程度行かないと取れないのか。

〇事務局なかなか難しいご質問ですね。事務局として悩むところなので、まだ、いつの時期か、今は言えないところです。

また、D副委員長からいただいた質問で、基本構想の際にどのようなことが決められたのですかということですが、基本構想の冊子は、6月議会で議決いただいたものとなっております。また、要約したものがもう一枚の概要版ということで、見ていただけますか。下の方に交流センターに求められる機能を基本構想の委員会で議論をいただきました。図書館に求められる7つの機能を議論しました。2ページの方、機能から規模の設置について検討しました。それを踏まえまして下の方にありますが②の施設の規模をいいますと、延床面積6,400㎡、試算ではありますが27～28億円、駐車場100台程度確保したいとしております。3ページの右下。フローアごとの面積の目安も検討を行ったということがございます。4ページの方ですが、②の「実現化に向けた課題」として、管理運営に関する課題ということで、施設運営計画を策定する必要があるということで、今回の委員会をお願いしたところでございます。休館日なども含めましてご検討をお願いしたいのですが、このように道半ばでございますので、（仮称）をいつとるかは、事務局でも検討させていただきたいと思っております。

〇委員長私が手掛けているところは、名称が決まるまで（仮称）がつくので、難しいと思っています。早く取れることを願います。他にございますでしょうか。

意見が出つくしたようですので、今後、このような協議方法及び策定スケジュールに基づき協議を進めていくことといたします。

以上で、本日予定しておりました協議事項は全て終了ということになります。委員の皆さまには、今後ともよろしく申し上げますということで、マイクの方を戻したいと思いません。

.....

閉 会

〇事務局委員の皆様には、ご審議を賜りまして誠にありがとうございます。これをもちまして「第1回（仮称）くろべ市民交流センター管理運営計画策定委員会」を閉会とさせていただきます。本日は、どうもありがとうございました。

閉 会 16時40分